

OMNI-PLUS SYSTEM LIMITED



INFINITE POSSIBILITIES. INFINITE SOLUTIONS.

事業計画及び成長可能性に関する説明資料

2025年6月27日

1. 会社概況：P2～P16

- 1) OPSってどんな会社？
- 2) エンジニアリング・プラスチック（エンプラ）とは？
- 3) ビジョン／ミッション
- 4) グループの概要
- 5) グループのネットワーク
- 6) 直近の決算概要（2025年3月期）
- 7) 確かな実績
- 8) 継続的な成長
- 9) 2025年3月期 主なトピック ①、②
- 10) 売上収益の推移（直近2事業年度）
- 11) 四半期業績（直近3事業年度）
- 12) 最終製品の多様化（用途別売上構成）
- 13) 大中華圏への拡販（仕向国別売上構成）

2. 一般市場動向：P17～P20

- 1) エンジニアリング・プラスチック（エンプラ）
市場動向：市場規模
- 2) エンジニアリング・プラスチック（エンプラ）
市場動向：樹脂別・分野別
- 3) 注力する4つの成長分野の市場規模予測

3. OPSグループの強み：P21～P34

- 1) OPSグループの強み
- 2) ビジネスモデル（サプライチェーン・ソリューション）
- 3) 事業系統図
- 4) 流通事業と開発・製造事業
- 5) 競争優位性
- 6) 研究開発能力と開発フロー
- 7) エンジニアリング・センターの機能
- 8) シンガポール政府からの多面的な支援
- 9) 進展する伊藤忠グループとの協業

4. 中長期経営方針：P35～P46

- 1) 中長期成長戦略のupdate
- 2) 成長計画
- 3) 2028年3月期までの重要指標（KPI）
- 4) 主要投資計画の変更
- 5) 注力する成長4分野
- 6) 継続的な学習と探求によるイノベーションの促進
- 7) 持続可能な社会への取り組み
- 8) 2030年までの持続可能な開発目標
- 9) 持続可能な3つのソリューション
- 10) PCRグラスウールについて

5. 当社の将来の成長と事業計画の実行に影響を及ぼすと思われるリスク：P47～P48



会社概況

OPSってどんな会社？



- オムニ・プラス・システム・リミテッド（OPS）は、シンガポールを拠点にASEAN地域で、2つの事業を展開するエンジニアリング・プラスチック（エンプラ）という合成樹脂素材のトータル・サプライチェーン・ソリューション・カンパニーです。

OPSの2つの事業

流通事業

エンプラの汎用品・特殊品（素材）の流通・販売

開発・製造事業

お客様のニーズに合った、
オリジナルのエンプラ（素材）の開発及びコンパウンド*

*コンパウンド（配合・着色）：
耐久性や耐熱性などの特性・価値を加えたり、樹脂素材に特定の着色を加えること

OPSのエンプラ製品をお使いいただいているお客様

多国籍企業のトップブランド

掃除機で有名な欧州系家電メーカー D社

米系OA機器メーカー H社

北欧系通信機器メーカー N社

欧州系医療機器メーカー B社

他多数

エンジニアリング・プラスチック（エンプラ）とは？

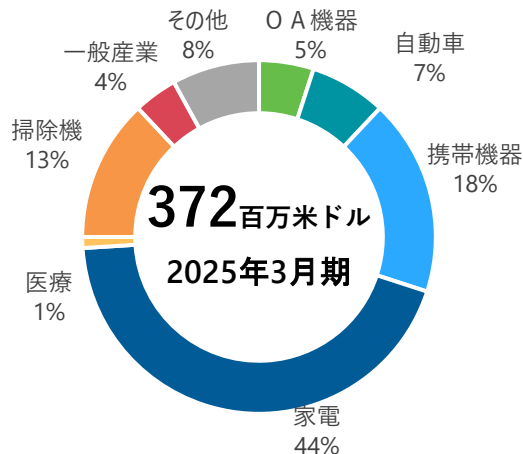


工業用の過酷な条件下でも使用できるよう、
高耐熱性や機械的強度を向上させた合成樹脂の総称です。

エンプラは、金属部品と汎用プラスチック部品の間に位置しており、
軽量化や低コスト化を実現しています。そのため、多くの種類が開発され、
様々な用途に応じて使い分けられています。

OPSのエンプラ製品は、家電、掃除機、OA機器、携帯機器から、
自動車、建材等の部品へと用途が拡大しています。

<最終用途別売上構成>



Vision

エンドツーエンドのソリューションと高度な持続可能な（サステナブルな）材料を提供することで、すべてのお客様に選ばれるワールドクラスなパートナーになります。

Mission

お客様、サプライヤー、パートナーとのネットワークとエコシステム全体でOPSのノウハウを最大限に活用したエンド・ツー・エンドのソリューションを提供することで新たな価値を創造し、お客様の革新的なデザインと製品の市場投入までの時間を飛躍的に短縮することを実現します。

グループの概要

- 合成樹脂のサプライチェーン・ソリューションを展開
- シンガポールにおいて高成長企業グループの評価を獲得



Key Stats

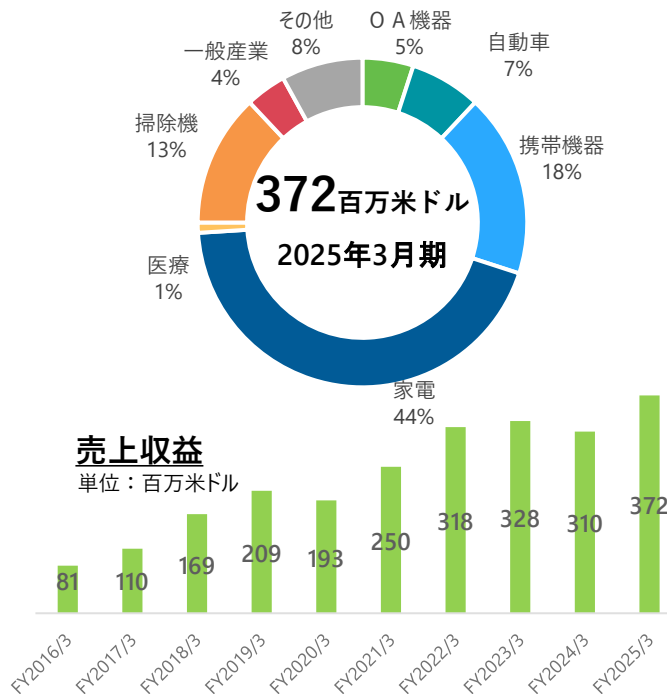
12 海外（アジア、中国、北米）展開
(2025/6時点)

23年 設立以来の経過年数
(2002/3設立)

18% 売上収益のCAGR*1
(2016/3～2025/3)

約250人 従業員数
(2025/3末)

売上収益の推移と最終用途別売上構成

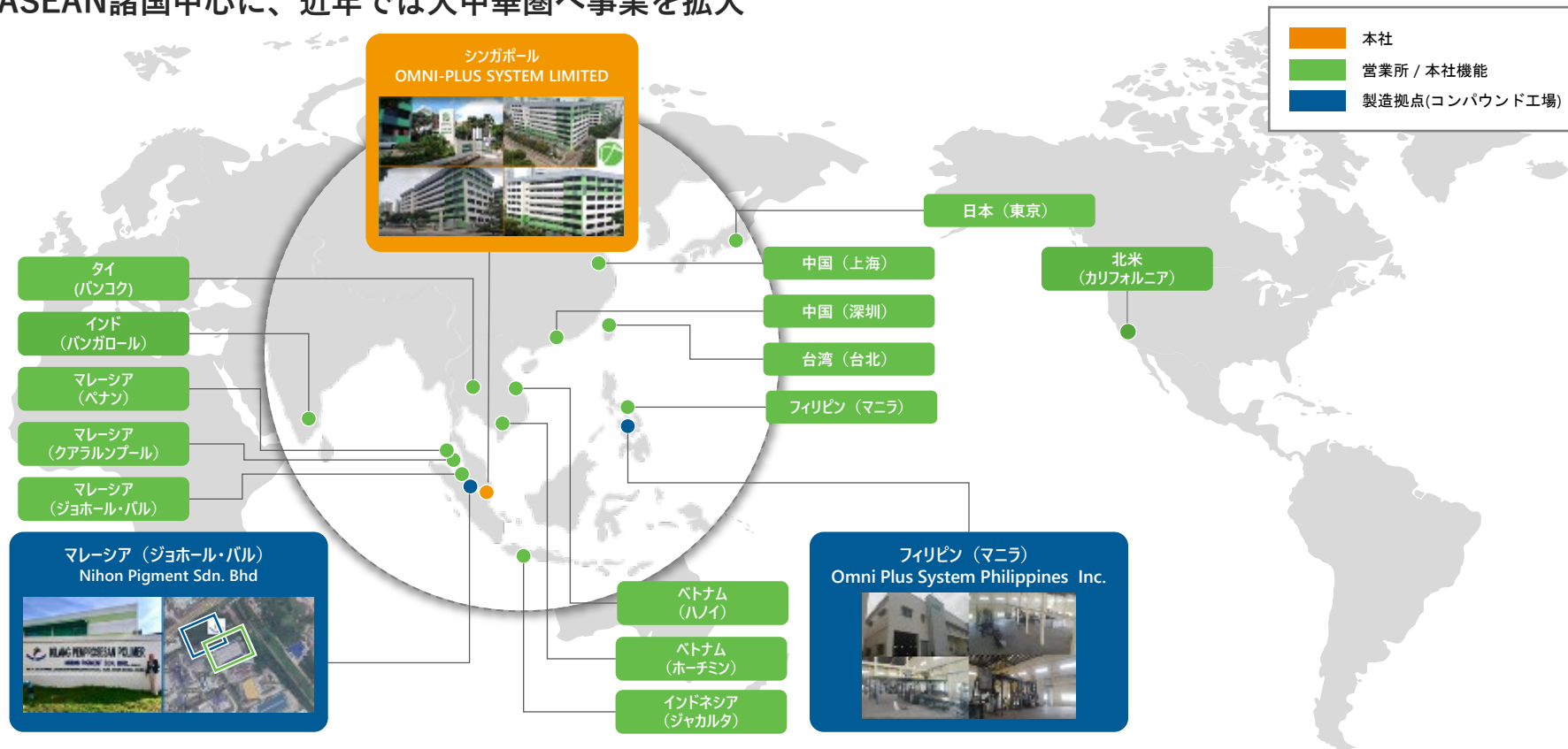


継続的な成長の実績により、当社は2020年シンガポール中堅企業の第4位に選定され、企業変革に関する特別賞を受賞しました。

*1 CAGR: Compound Annual Growth Rate (年平均成長率 (%))

グループのネットワーク

ASEAN諸国中心に、近年では大中華圏へ事業を拡大



顧客需要の拡大と買収した子会社の売上寄与、高価格戦略の効果で大幅な増収増益

売上収益

371.5 百万米ドル (555億円)

前期比 +19.8%

売上総利益

49.8 百万米ドル (74億円)

前期比 +23.8%

当期利益

16.1 百万米ドル (24億円)

前期比 +53.9%

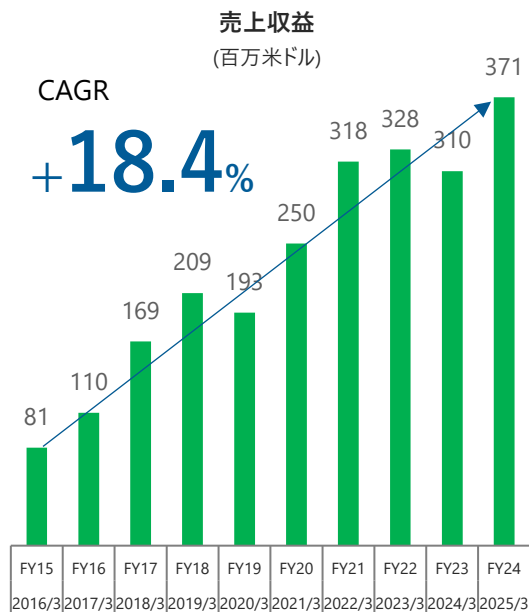
ROE

19.9%

当社の連結財務書類は米ドルにて表示されています。本書において便宜上記載されている日本円の換算は、別段の記載がある場合を除き、1米ドル = 149.52円（2025年3月31日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買取相場の仲値）により計算されています。

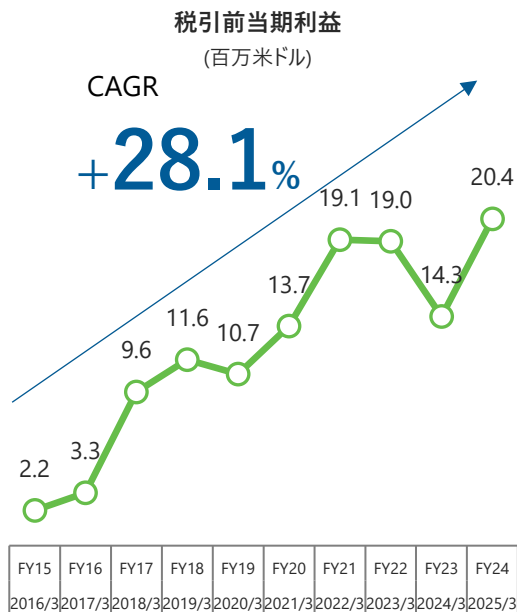
1

CAGR 18.4%の 力強い持続的な収益成長



2

研究開発に注力する 収益性の高い企業



3

JDR分配金 利回り

4.7% ※1

※1 以下の内容をもとに算出しております。

2025年3月期における

JDR分配金の支払額（JDR 1口当たり）：40円（2回分合計）

期末（2025年3月31日）株価（終値）：850円

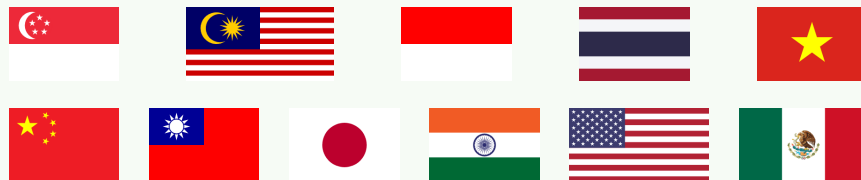
継続的な成長

不確実性の中での業績回復(2025年3月期)

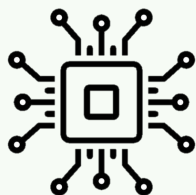
20% 増収

54% 増益 (当期利益)

成長の機会を逃さない有利な位置にある国々



2026年3月期のターゲット成長産業



より強固なパートナーシップの構築

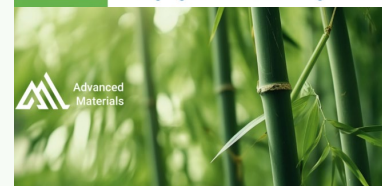
International Material Supplier (台湾) の買収 2024

A*STAR-IMRE (シンガポール材料研究工学研究所) との産業連携プロジェクト 2024

製造業におけるAIに関するA*Star-SIMTech (シンガポール製造技術研究所) との産業連携プロジェクト 2024

Plastech Trading Shanghai (中国) の買収 (中国大陆へのビジネス拡大) 2025

Advanced Materials との竹由来の生分解性製品のグローバル展開を目的とする合弁会社設立に関する基本合意書 (MOU) の締結 (環境に配慮した素材の開発) 2025



2024年11月14日

塑料贸易（上海）有限公司（Plastech Trading (Shanghai) Co., Ltd 以下「PTS 社」）を子会社化

PTS社は、中国東部において最も影響力のあるプラスチック専門商社の1つ。世界的な化学グループだけでなく、日本、韓国、台湾などの主要な化学メーカーから高性能原材料を調達し、中国国内の上場企業約100社に供給。

PTS 社を子会社化することにより下記の利点を得ることが出来る。

- **地理的拡大：**当社のインフラと主要株主である伊藤忠のグローバルネットワークを活用し、PTS 社の製品とサービスを東南アジアをはじめとする新たな市場へ展開
- **製品ポートフォリオの強化：**当社の製品ラインナップを多様化し、より幅広いプラスチック製品とソリューションの提供が可能
- **業務上のシナジー効果：**当社の業務能力とPTS社の貿易事業の統合により、当社のネットワークと資金調達力がさらに強化され、特に、新興のグローバルな中国ブランドの顧客に対し、より効率的でカスタマイズされたソリューションの提供が可能

□ PTS社の概要

名称	塑料贸易（上海）有限公司 (Plastech Trading (Shanghai) Co., Ltd)
所在地	(中国) 上海市上海城区静安区 成都北路199号1204室
代表者の役職・氏名	法定代表人／ 柳林
事業内容	プラスチック製品、電子製品、電気機械 設備の卸売、輸出入、委託代理等
資本金	10百万元（207百万円）
設立年月日	2007年 8 月 1 日
異動後の所有持分	9 百万元 （186百万円） （90.0%）

※ 日本円への換算は、2025年2月25日現在の株式会社三菱 UFJ 銀行の対顧客
電信直物売買相場の仲値に基づき 1 人民元 = 20.70円で計算

2025年 5 月23日

JC Vine Holding Pte. Ltd.（本社：シンガポール、以下 JC Vine）及びAdvanced Materials Co., Ltd.（本社：台湾新竹市、以下 AMC）と戦略的業務提携。

竹由来の生分解性製品のグローバル商業化を目的とした合併会社の設立に向けた基本合意書（MOU）を締結

- ❑ AMCは、自社ブランド「新竹金 BAMBOO」に基づく独自の生分解配合技術、技術的専門知識、並びに認証取得済みの生産体制を提供
- ❑ OPS及びJC Vineは、グローバル市場の開拓、独自ブランドによる製品展開、並びに流通体制の構築を主導

3 社共通のビジョンを具現化

持続可能性の推進

素材イノベーションの拡大

循環型経済の実現

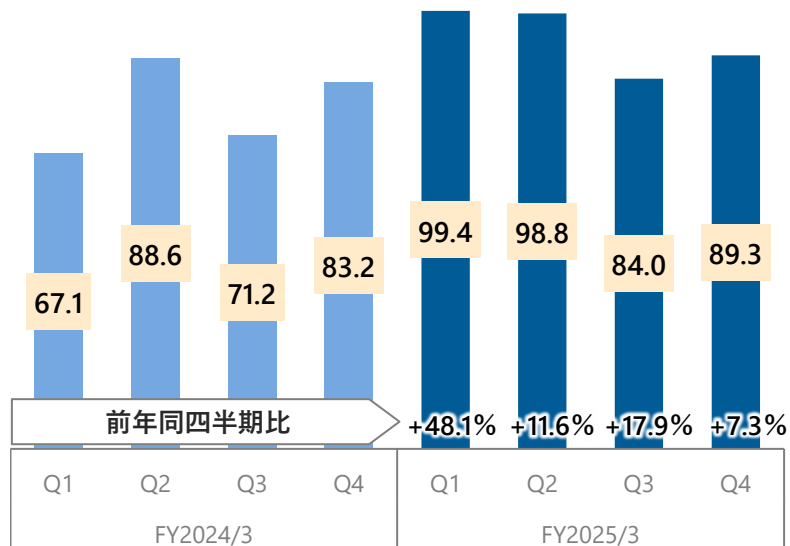
【新たに設立される合併会社の概要】

ブランド名	Powered by Bamboo Technology (バンブーテクノロジーによる革新)
活動拠点	シンガポール
事業内容	食品用包装、電子材料、さらには半導体用途に至るまで、幅広い産業分野に向けて、高性能かつ環境に配慮したソリューションの提供を目指す

売上収益の推移（直近 2 事業年度）

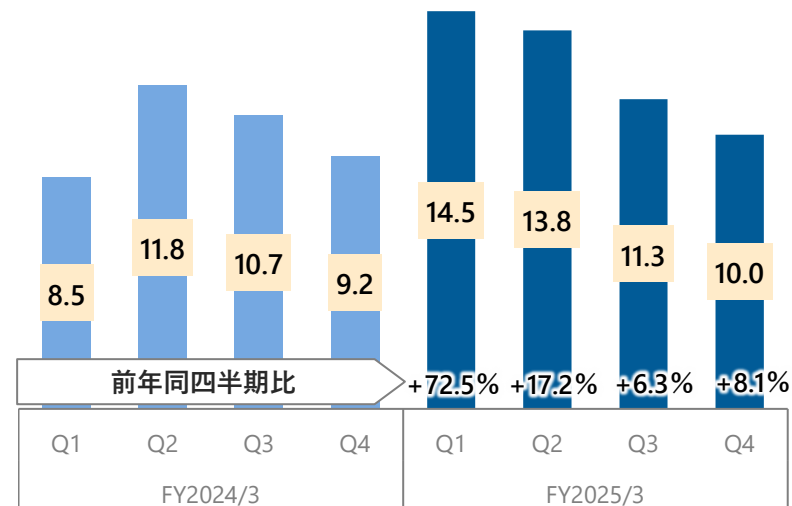
売上収益の推移（四半期）

（百万米ドル）



売上総利益の推移（四半期）

（百万米ドル）

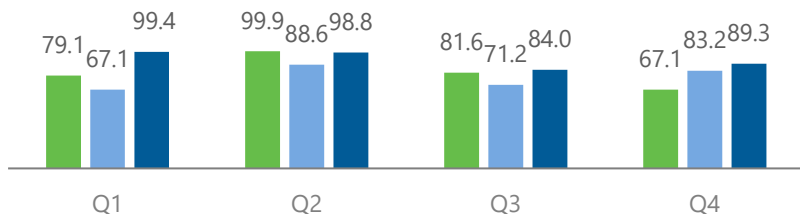


四半期業績（直近 3 事業年度）

売上収益

単位：百万米ドル

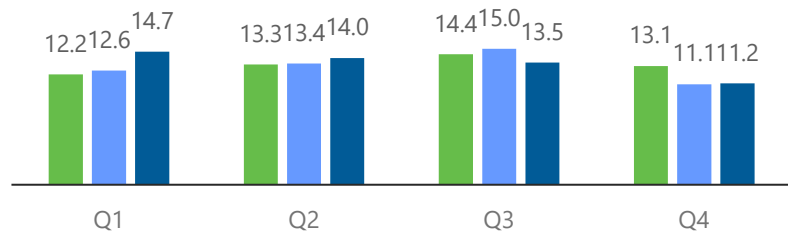
■ 2023年3月期 ■ 2024年3月期 ■ 2025年3月期



売上総利益率

単位：%

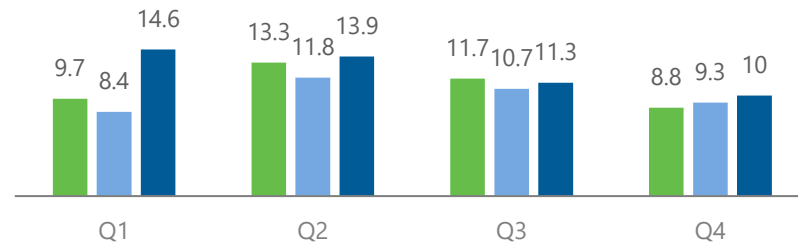
■ 2023年3月期 ■ 2024年3月期 ■ 2025年3月期



売上総利益

単位：百万米ドル

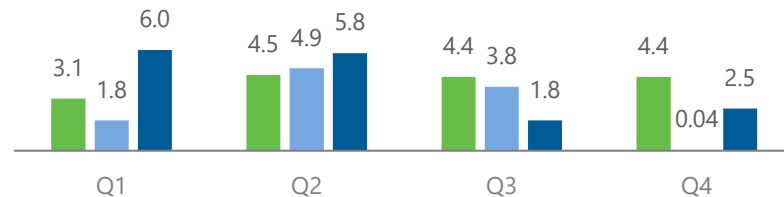
■ 2023年3月期 ■ 2024年3月期 ■ 2025年3月期



四半期利益

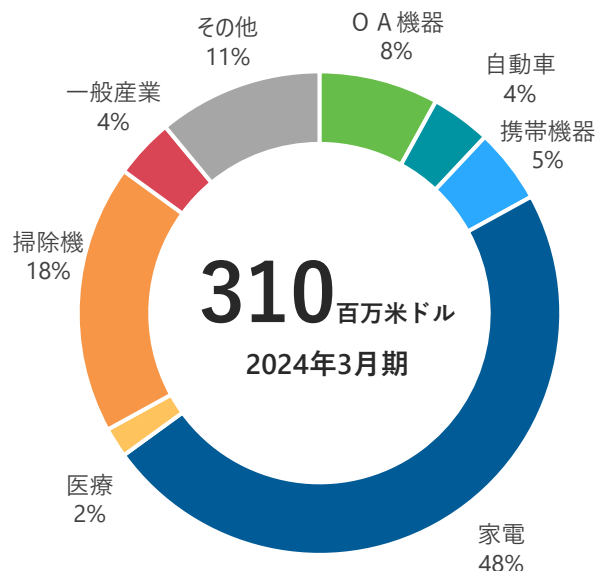
単位：百万米ドル

■ 2023年3月期 ■ 2024年3月期 ■ 2025年3月期



最終製品の多様化

- 携帯機器向けのシェア大幅増と自動車向けが微増、主要用途の家電・掃除機向けシェアは減少



シェアの増加した使用製品

携帯機器 + 13%

自動車 + 3%



シェアの減少した使用製品

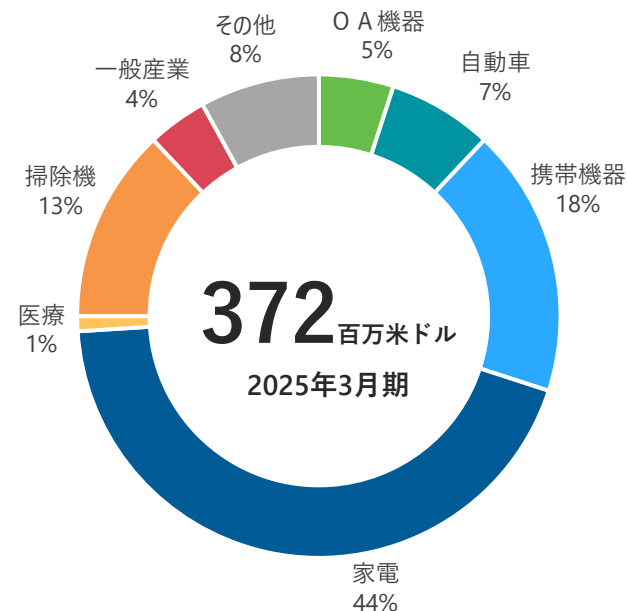
掃除機 - 5%

家電 - 4%

OA機器 - 3%

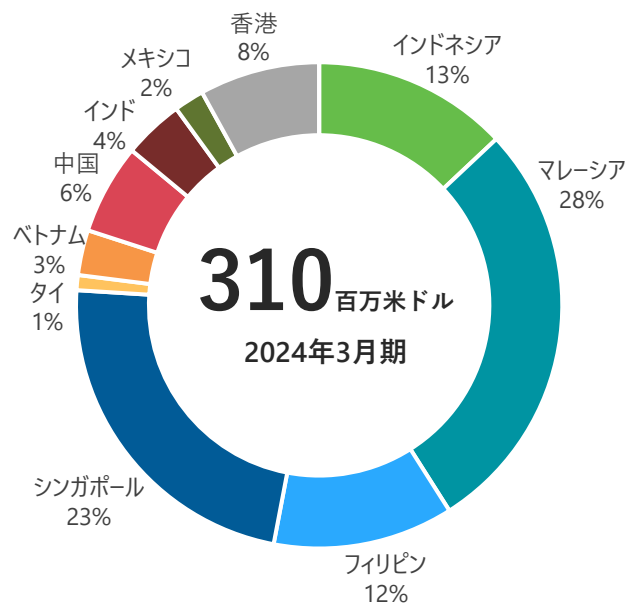
その他 - 3%

医療 - 1%



大中華圏への拡販

- 台湾及び中国（上海）の商社を買収したことにより、中国及び香港の割合が増加
その結果、アセアン（フィリピン、インドネシア、マレーシア）向けシェアが低下



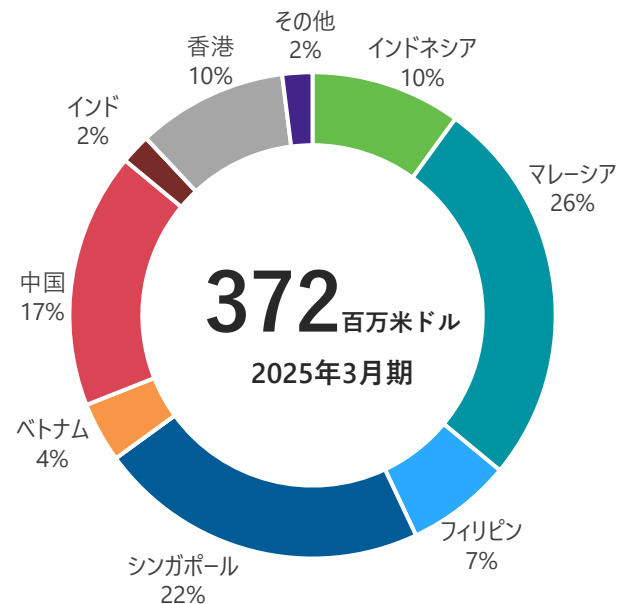
仕向け先シェアが増加した国

中国	+ 11%
香港	+ 2%
ベトナム	+ 1%



仕向け先シェアが減少した国

フィリピン	- 5%
インドネシア	- 3%
マレーシア	- 2%
インド	- 2%
シンガポール	- 1%





一般市場動向

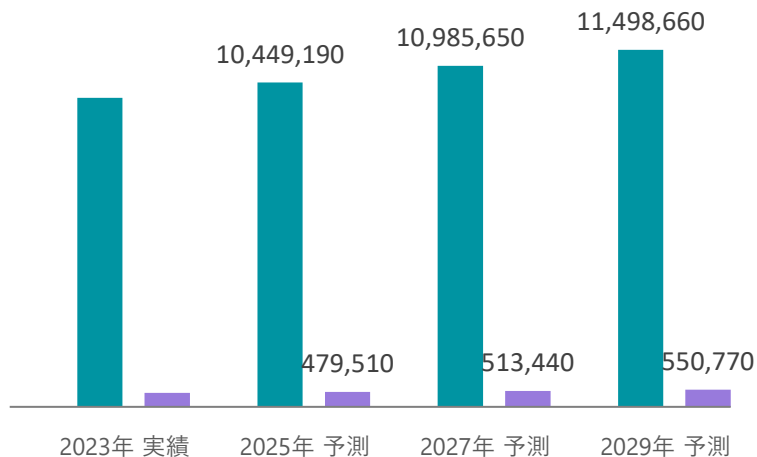
エンジニアリング・プラスチック（エンプラ）市場動向：市場規模

- エンプラは、自動車分野、電気電子分野、産業機器分野、食品分野などの様々な製品に使用されており、世界全体の販売及び生産数量は実質GDPの拡大に伴い増加
- 今後も景気拡大局面、景気後退局面で需要の波はあるものの、年平均成長率2～3％で推移する見通し

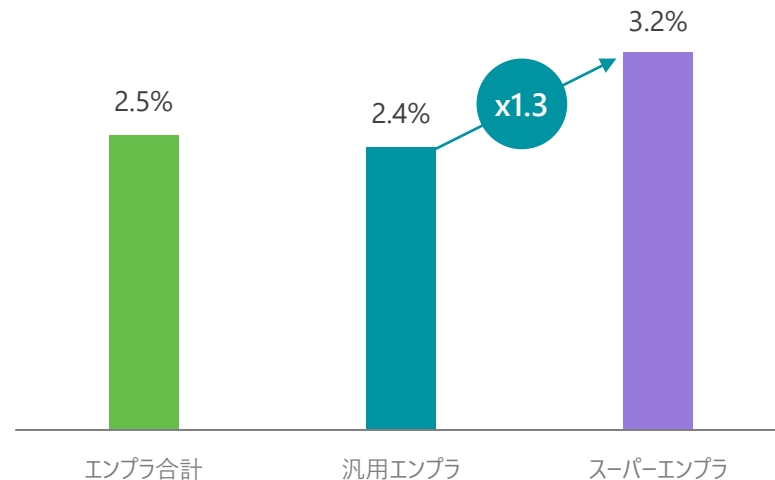
販売数量の変化

(単位：t)

■ 汎用エンプラ ■ スーパーエンプラ



2023年～2029年のCAGR(年平均成長率)

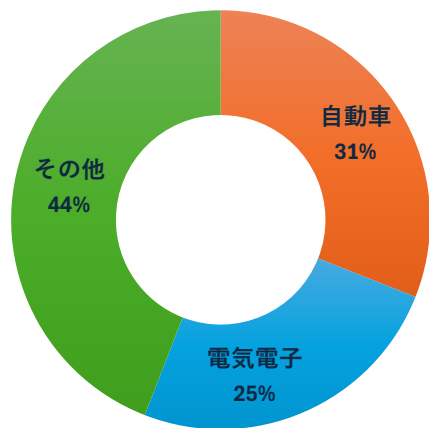


エンジニアリング・プラスチック（エンブラ）市場動向：樹脂別・分野別



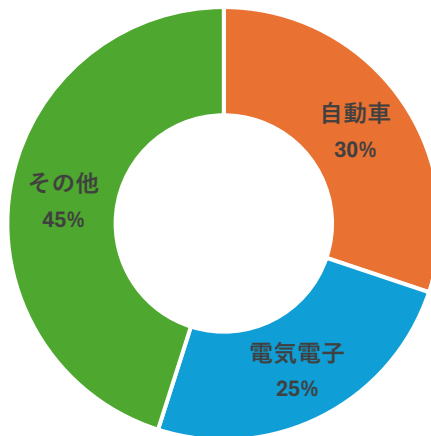
- 自動車分野はEV、電気電子分野は5G通信関連が需要を牽引すると予想され、当社の中長期重点領域と合致
- データは2024年の見込であるが、現在、各樹脂の主用途の割合に大きな変化はないと推測

用途別内訳
(樹脂全体)

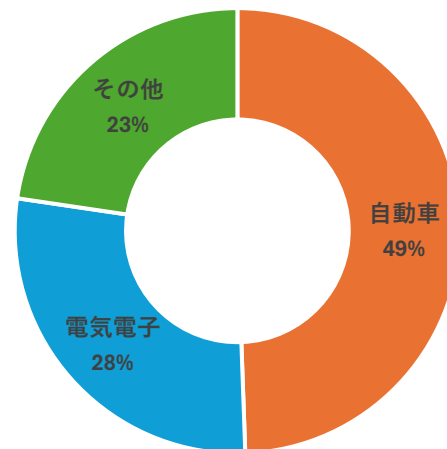


樹脂別主用途

汎用エンブラ



スーパーエンブラ

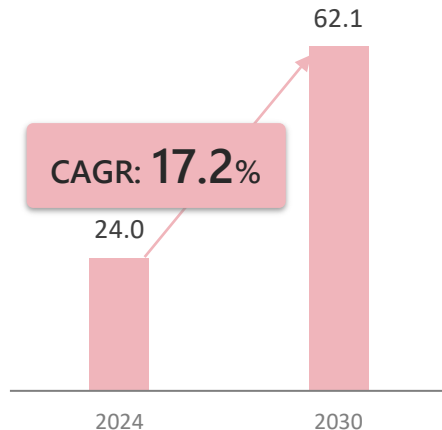


注力する4つの成長分野の市場規模予測

● 中長期的に高成長分野の合成樹脂に注力

IT&C (5G) 関連樹脂

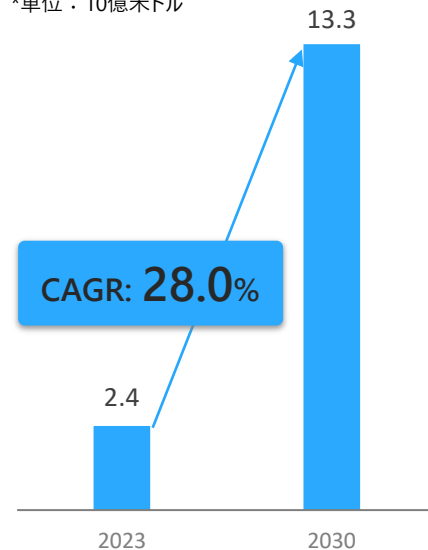
*5G/6G関連デバイス・材料
*単位：兆円
*CAGR:年平均成長率(%)



[2024年版 5G/6G関連デバイス・材料の現状と展望：株式会社矢野経済研究所]
出典：www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/3698

自動車 (EV) 関連樹脂

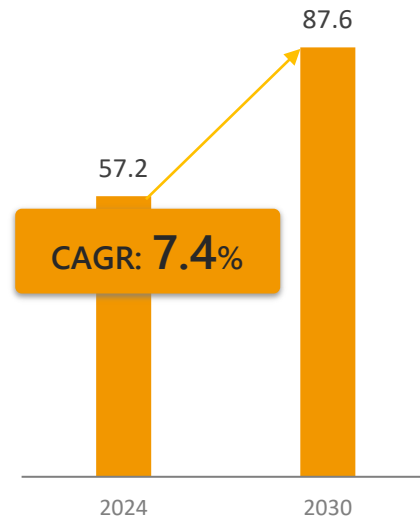
*単位：10億米ドル



[Electric Vehicle Plastics Market Size & Share Report,2030]
出典：www.grandviewresearch.com/industry-analysis/electric-vehicle-plastics-market-report

メディカル関連樹脂

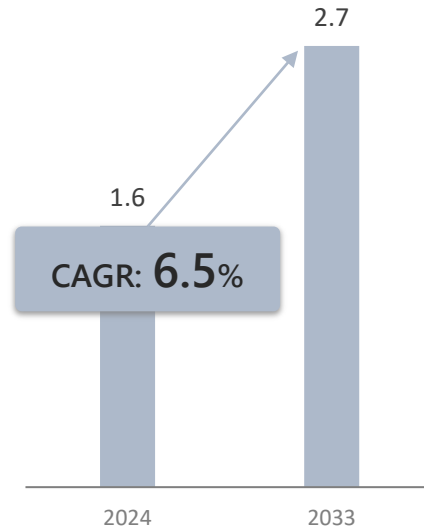
*単位：10億米ドル



[Medical Plastics Market Size & Share Report,2030]
出典：www.grandviewresearch.com/industry-analysis/electric-vehicle-plastics-market-report

半導体関連樹脂

*単位：10億米ドル



[Semiconductor Plastics Market Size, Share, Global Report]
出典：www.businessresearchinsights.com/market-reports/semiconductor-plastics-market-112280



OPSグループの強み

1

サプライチェーン・ソリューション

- 1) トップ・ポリマーメーカー、トップ・ブランド顧客との強力なパートナーシップ
- 2) 事業系統図
- 3) 自社コンパウンド加工による技術・ノウハウ蓄積、開発リードタイム短縮

2

主要顧客との長期間に及ぶパートナーシップ

主要顧客との取引拡大により成長してきた実績

3

OPSグループの研究開発能力

ソリューション・プラットフォームを支えるエンジニアリング・センターを中核とした研究開発体制

4

戦略パートナーからの強力なサポート

- 1) シンガポール政府からの様々な支援・協力
- 2) 伊藤忠グループとのコラボレーション・シナジー

ビジネスモデル（サプライチェーン・ソリューション）

- 原材料メーカー（川上）から完成品（川下）までのサプライチェーン・ソリューションを提供
- 原材料メーカーとの強固なパートナーシップによりトップブランド向けの製品を安定供給
- 委託製造会社等との強固なリレーションを通じて、製品を確実に供給
- 個別のお客様のニーズに対応できること、特に指定の着色をすることがOPSの得意技術であり、お客様から選ばれる要因の一つ
- 開発部門（エンジニアリングセンター）を本社に隣接し、コンパウンド工場をマレーシアとフィリピンに保有

OPSを選ぶ理由

- トップブランドへの販売
- 顧客開発ニーズの把握・収集

OPSの強み

- 複数メーカーからの最適素材の提案
- 顧客の生産に合わせた機動的対応

OPSを選ぶ理由

- 開発期間短縮
- 一括調達によるリードタイム短縮

欧米、日本等のトップの原材料メーカー



多国籍企業のトップブランド

パートナーシップ

新素材の用途に関する共同開発
トップブランド向け汎用品の安定供給

サプライチェーン・ソリューション

汎用品の流通

オリジナル品の開発・製造・販売

開発 : エンジニアリングセンター
製造工場: マレーシア & フィリピン

パートナーシップ

新素材の共同開発による製品機能の向上



原料

重合

ニートレジソ

配合開発

コンパウンド

汎用品
オリジナル品

委託製造会社/ 協力会社/ 成形業者
トップブランド向け汎用品 及び
オリジナル品（OPSが開発・製造）を安定供給

成型加工

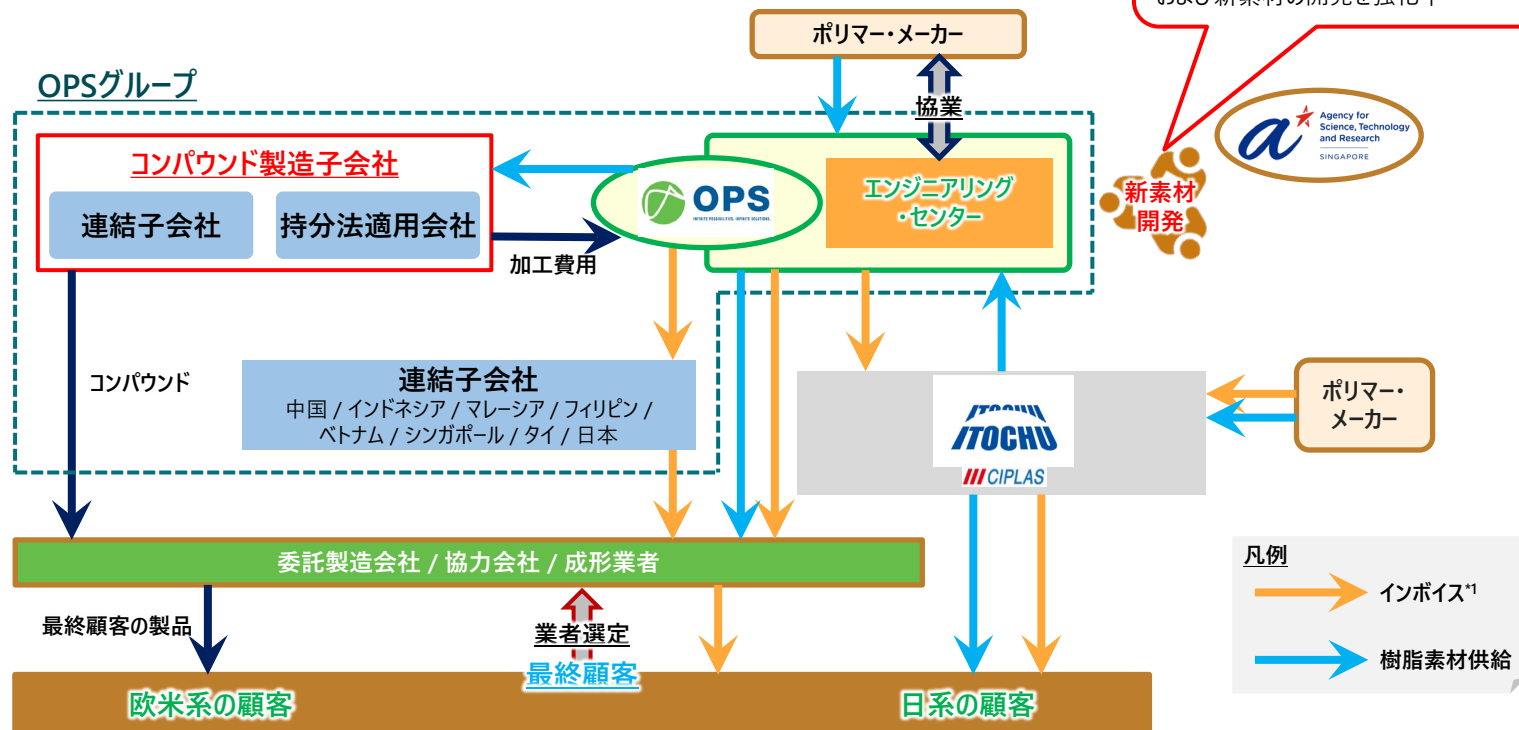
部品組立

製品組立

加工部品
製品

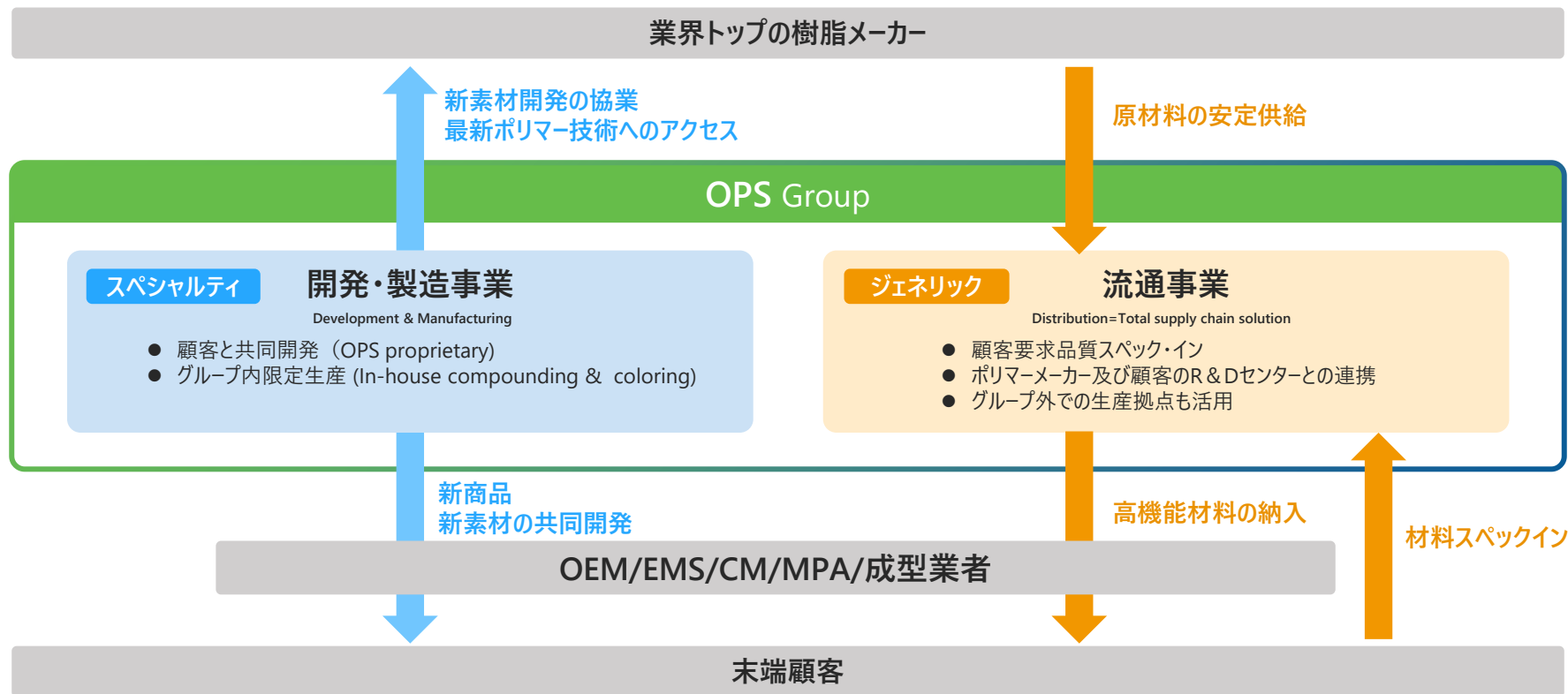
事業系統図

● 合成樹脂に関する流通事業と開発・製造事業を展開



*1 インボイスとは、主に海外へ物品を発送する際に、その中身を英文で説明する書類のこと。「送り状」とも言われるが、実際には、送り状、価格計算書、請求書、納品書などの役割を兼ね備えており、貨物通関手続きには必要不可欠な重要書類である。海外へ発送する物品には、すべてインボイスを付けなければならない

バリュー・チェーン（素材から末端ユーザーへの垂直統合）



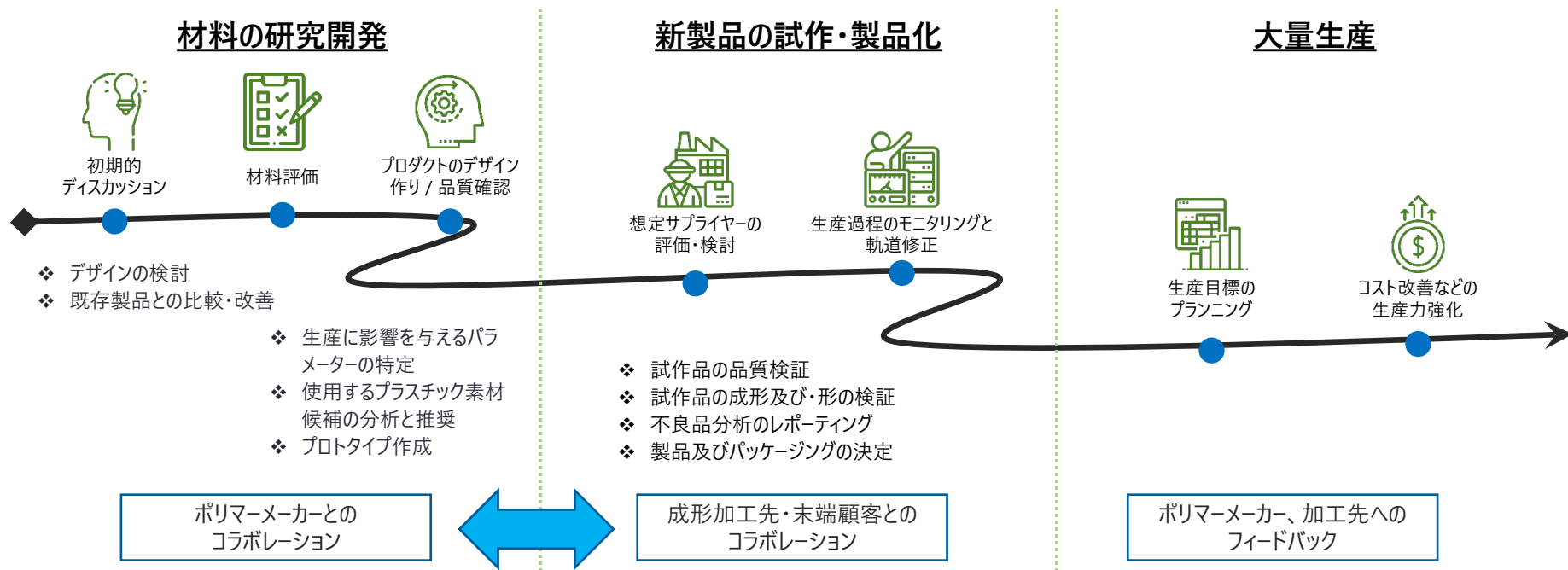
- 間接的に競合する3業界の專業に対して、一貫したサポートを提供
- 独自の提案で、他業界ができない使い勝手の良いサービスを実施
- 汎用品（ジェネリック）から特殊品（スペシャルティ）まで、顧客の多様なニーズ、商品群に応じて供給可能
- 独自の自社開発コンパウンドと、顧客の特定ニーズを満たすためのOEMの両方に対応
- 個別の顧客ニーズに、素早いリードタイムでの対応が可能な、コンパウンダーとしてユニークなポジショニングを確立

	R&D機能	R&Dスピード	供給可能な製商品群	サプライチェーン
	○	○	○	○
ポリマーメーカー	○	△	×	×
コンパウンダー	×	—	×	×
トレーダー	×	—	○	△

➡ 自社生産品
限定対応

➡ R&D機能が
弱い

- お客様の製品ライフサイクルの初期段階から共同研究開発を行い、最終製品設計から商業生産までの製品開発プロセス全体を継続的にフォローすることで、環境、安全性、技術、規制上の要件等に関するお客様のニーズを正確に特定して対応することが可能



エンジニアリング・センターの機能

● 研究開発の強力な基盤である“エンジニアリング・センター”

顧客の主要課題



高い試作費用

さまざまな業界の幅広い顧客に対応するため、仕様のニーズには大きなばらつきが存在



長い所要時間

原料の配合を少しでも変更した場合は、再テストが必要になります。テストに要する時間は9～18ヶ月



テストのためのデータの欠如

業界の規範は「経験に基づく実験」であるため、ノウハウの管理と後継者の育成が課題

“エンジニアリング・センター”による支援



材料試作機能

“エンジニアリング・センター”には、試作を実施するために必要な、あらゆる機器と材料を整備



認定された試験施設

“エンジニアリング・センター”は、ISOおよびUL認定を取得し、納期を3ヶ月以内に短縮する試験を実施可能



独自の材料データベース

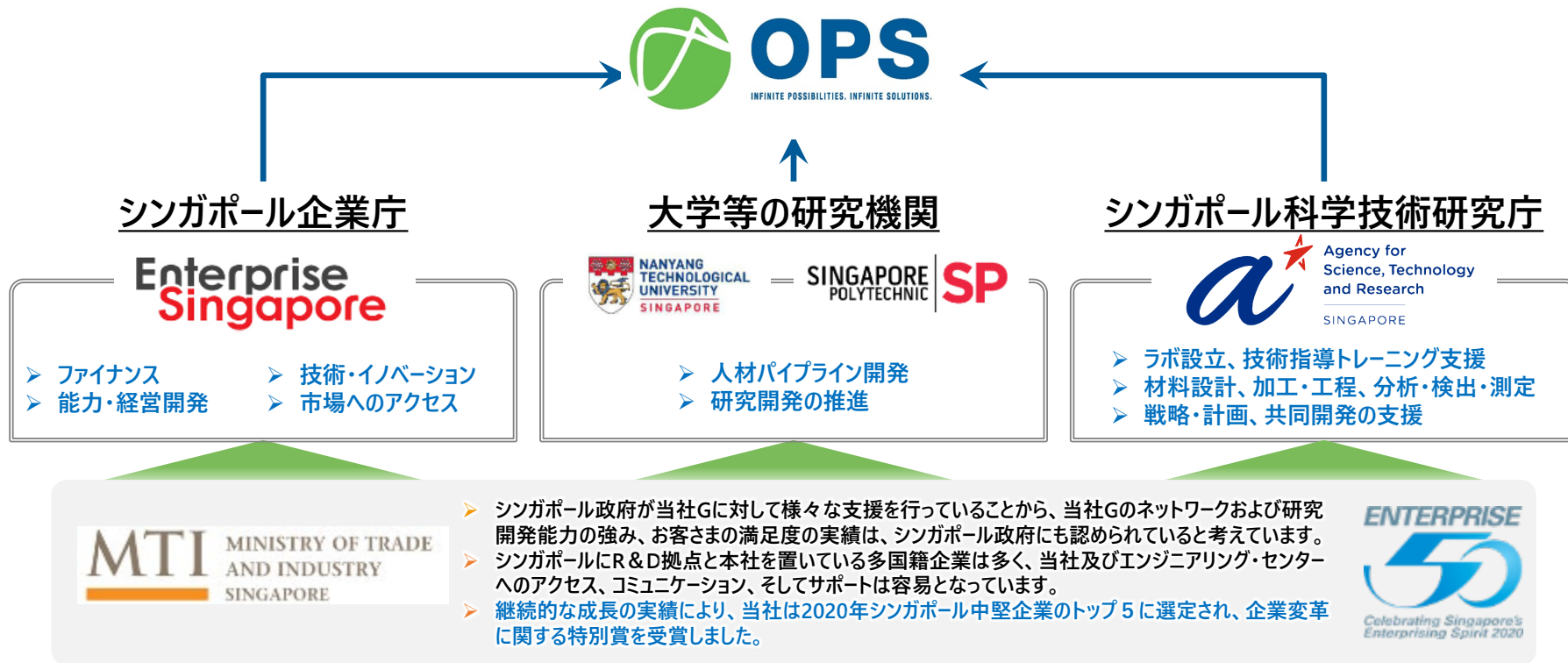
開設以来、全ての材料のメタデータを収集。当社グループ独自のデータベースには、400超の材料のデータを格納

“エンジニアリング・センター”



シンガポール政府からの多面的な支援

●シンガポール経済へ貢献する高成長企業



A*STAR-IMRE（シンガポール材料研究工学研究所）との産業協力プロジェクト



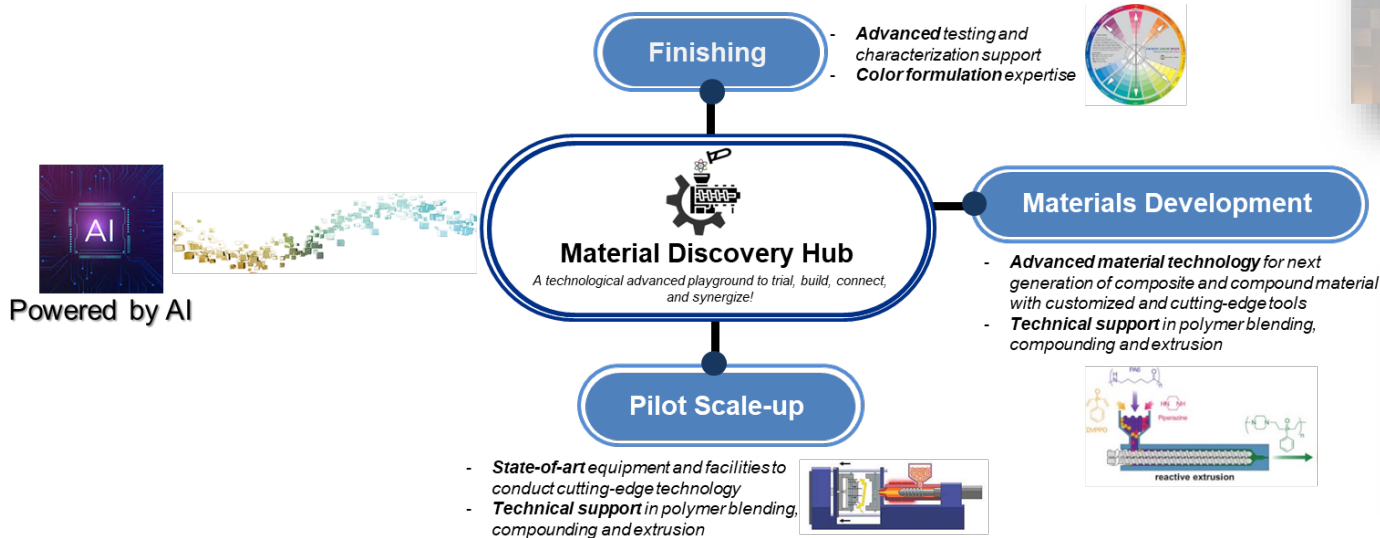
IMRE（Institute of Materials Research and Engineering）は、シンガポール科学技術研究庁（A*STAR）傘下の科学技術研究評議会（SERC）に所属する研究機関です。1997年9月に設立され、材料開発、分析、特性評価、および製造において強固な基盤を持っています。

www.a-star.edu.sg/imre

- 2024年9月5日、先端素材研究ハブの構築についてA*STAR-IMREと契約締結



共同研究開発により、高性能エンジニアリング・プラスティックの強化を図る



左から：Maureen Tan博士（IMRE副事務局長）、
Loh Xian Jun教授（IMRE事務局長）、
Neo Puay Keong（OPS/CEO）、
Daryl Neo Boon Yao（OPS/Deputy CEO）

2024年9月5日付 IMREのオフィシャルサイトのIMRE NEWSにて詳細が開示されております。

www.a-star.edu.sg/imre/news-and-highlights/highlights/media/imre-and-omni-plus-system-ltd-collaborate-to-enhance-high-performance-engineering-plastics

- 2024年9月27日、OPSを含む10社がシンガポール副首相兼貿易産業大臣主導する「製造業におけるAI」プロジェクトに関して、A*STAR SIMTech（シンガポール製造技術研究所）と契約締結

SIMTech（The Singapore Institute of Manufacturing Technology）はシンガポール科学技術研究庁（A*STAR）の研究機関です。シンガポールの製造業の競争力を高めるため、価値の高い製造技術と人材を開発しています。精密工学、医療技術、航空宇宙、自動車、海洋、石油・ガス、エレクトロニクス、半導体、物流など、さまざまな分野の多国籍企業や地元企業と連携しています。www.a-star.edu.sg/simtech



左から：Daryl Neo Boon Yao（OPS/CDO）、
Gan Kim Yong氏（シンガポール副首相兼貿易産業大臣）、
Andy Malcolm氏（自動検査システムおよび非破壊検査のバックグラウンド
を持つ主任研究エンジニア）



Daryl Neo Boon YaoがGan Kim Yong副首相へA*STAR-SIMTechとの
産業協力プロジェクトについて説明

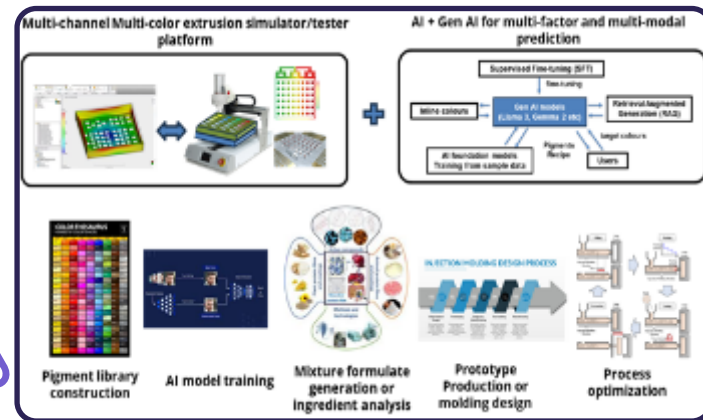
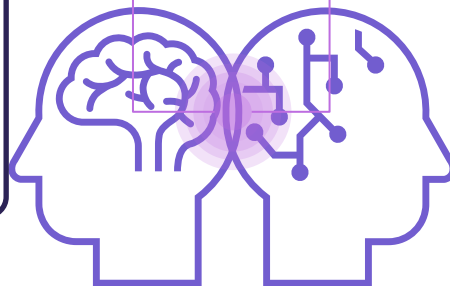
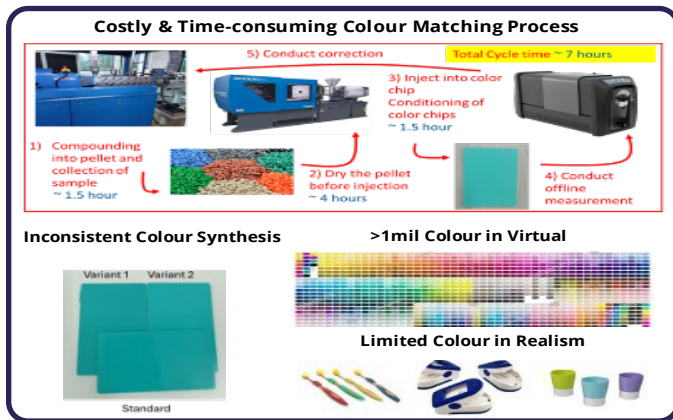
新たに設立されたシンガポール科学技術研究庁（A*STAR）のセンターは、製造業におけるAI（人工知能）の採用を推進することを目的としています。このセンターは、AI技術の研究開発とその実践的な応用を促進し、業界の効率向上や競争力強化を支援することを目指しています。

産業のボトルネック

- 長いサイクルタイムとレシピ生成の精度の低さにより、顧客の需要を満たすことが困難
- 大量生産時の色の一貫性を維持するには高コストがかかる

AI ソリューション

- GenAI（生成AI）とGNN（グラフニューラルネットワーク）の活用により、インテリジェントな配合生成、プロセス最適化及び結果予測が可能
- カラー・マッチング、検査及びインライン補正の自動化により、高い色の一貫性を実現



- より早く
- より安く
- 正確に
- 柔軟で多様
- 個別化及びカスタマイズされたサービス
- 現実的なバーチャルカラー評価



85%

カラー・マッチング
の時間短縮

90%

カラー・マッチング
のコスト削減

10x

色の正確さと
多様性の向上

進展する伊藤忠グループとの協業

- 多面的に具現化される事業シナジー、2022年度より業績貢献本格化



伊藤忠グループによる株式保有持分

2017/6	Stage 1	10.00%
2019/3	Stage 2	26.52%
2022/9	上場後	25.24%



継続的に期待される事業シナジー

(日系) 顧客への アプローチ・拡がり

- 伊藤忠GはOPSの重要な株主になっているため、OPSグループは、伊藤忠Gの広範なネットワークを活用可能

樹脂サプライヤーの拡がり

- 伊藤忠Gのグローバル拠点を通じた供給ソースの拡大

共同出資の検討

- 今後は、日本や海外の技術・M&A案件へ多くの共同投資が見込まれる



中長期経営方針

スペックイン・ビジネスモデルの推進

- **既存顧客** 既存製品向け商品の伸長と、新規製品向け商品の供給拡大
-----p15参照：携帯機器向けのシェアが大幅増加
- **新規顧客** 新規取引の拡大
-----p16参照：台湾及び中国（上海）の商社を買収したことにより、中国及び香港の割合が増加

R&D型ビジネスの強化+ 持続可能な社会への取り組み

- 政府機関との新たな共同研究：A*STAR-IMRE（シンガポール材料研究工学研究所）及び
A*STAR-SIMTech（シンガポール製造技術研究所）
-----p30,31参照：どちらもAI（人工知能）を活用する産業協力プロジェクトに参画
- 将来の収益成長の柱である成長イニシアチブを従来の3分野から4分野へ見直し拡大
-----p41参照：半導体関連およびMedTech（医療機器）の高機能化・高度化が進展することにより、エンジニアリング・プラスチック（エンプラ）の需要は確実に増加
- 持続可能性素材（Sustainable Material）の開発及び供給拡大
-----p12参照：台湾のAMC社と戦略的業務提携。竹由来の生分解性製品のグローバル商業化を目的とした合併会社を設立予定
-----p45,46参照：PCR製品は、日本のメーカーでも導入に向けて評価中

中長期成長戦略のupdate

重点顧客との長期的な関係強化及び新市場への参入

- 包括的なソリューションを提供することによる顧客ベースの充実と拡大
-----p23-34参照：強みであるASEAN市場でのサプライチェーンソリューションの提供 + 研究開発力強化（サステナブル素材やAIの活用）
-----p40参照：完了時期が遅れているものの、生産能力を増強
- 重点顧客の製造拠点拡張による新市場への参入→ASEAN市場での継続的な販売拡大及び大中華圏への顧客基盤の拡大
-----p16参照：仕向け地として中国、香港の割合が増加

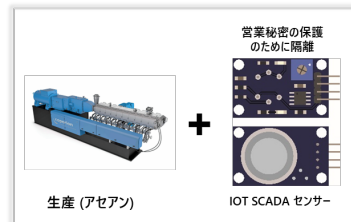
伊藤忠グループとの協業：伊藤忠Gの広範なネットワークを活用

- 伊藤忠グループのネットワークを活用したM&Aへの積極的なアプローチ
- 日本市場及び日本の主要顧客へ参入：引き合い案件は着実に増加

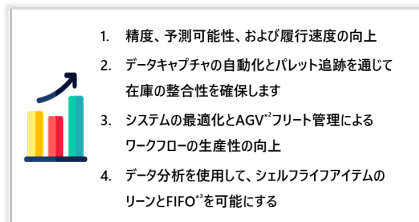
デジタル化（DX）の推進：事業運営を合理化して、競合他社との差別化を推進

- 現在のSAP Business One に代わる新しいERPシステムを導入予定
- AIカラーマッチングによる時間短縮、コスト削減、柔軟で多様な顧客ニーズに対応-----p32,33参照
- グループ全体のDXを推進するチームを発足

IOT対応機器および機械



データの整合性 – ML¹⁾ / AI対応



成長計画



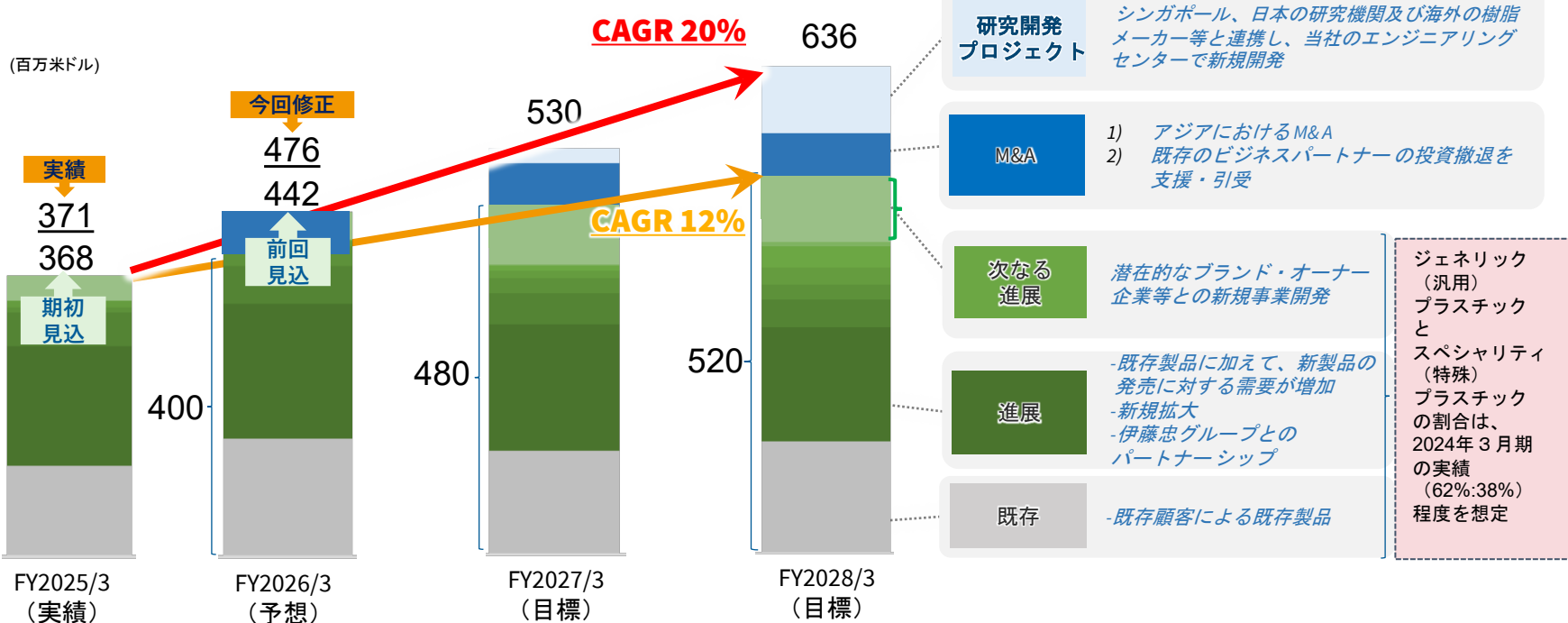
前回提示した前提条件



今回追加した前提条件

- アfterコロナによる顧客需要は回復するが、そのスピードは遅い
- ネクストチャイナ政策に基づく、顧客の中国生産拠点のASEANへの移動による市場拡大
- M & Aへの積極的アプローチが可能となった当社の体制
- 国際的な衝突や地政学的緊張が継続→サプライチェーンへの影響が予測困難
→基本的な戦略及び目標数値（FY2027/3 及び FY2028/3）は継続（見直しナシ）

売上収益 CAGR 20%



*CAGR:年平均成長率 (%)

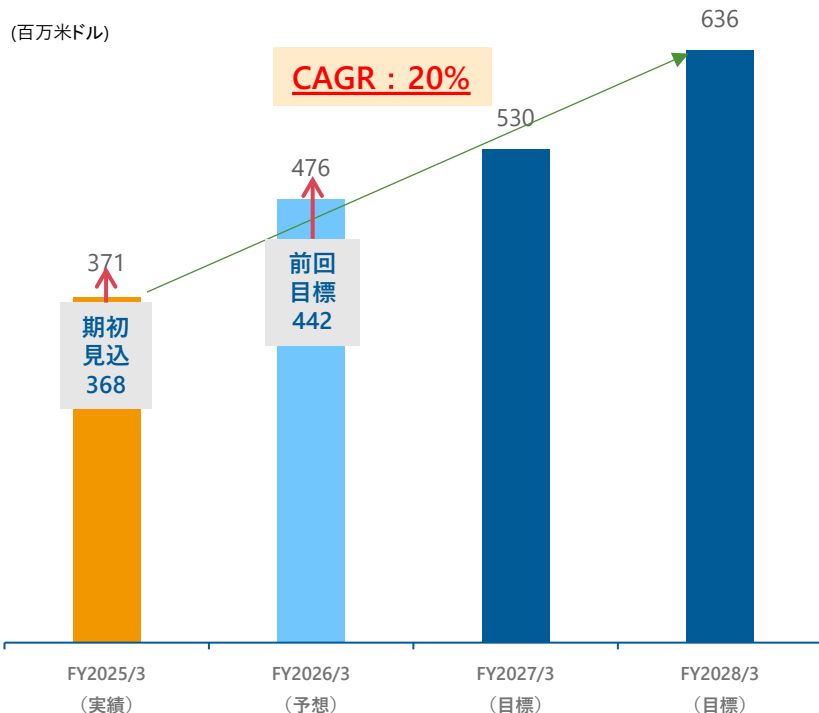
※前回：2024年6月28日付「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」

2028年3月期までの重要指標（KPI）

重要指標①：売上収益

主要顧客のビジネス予測を参照して、既存の市場の業界標準レベル（CAGR 約 6 %程度）以上の**売上収益**を重要指標（KPI）に設定

* FY2027/3及びFY2028/3の目標値は前回より修正なし



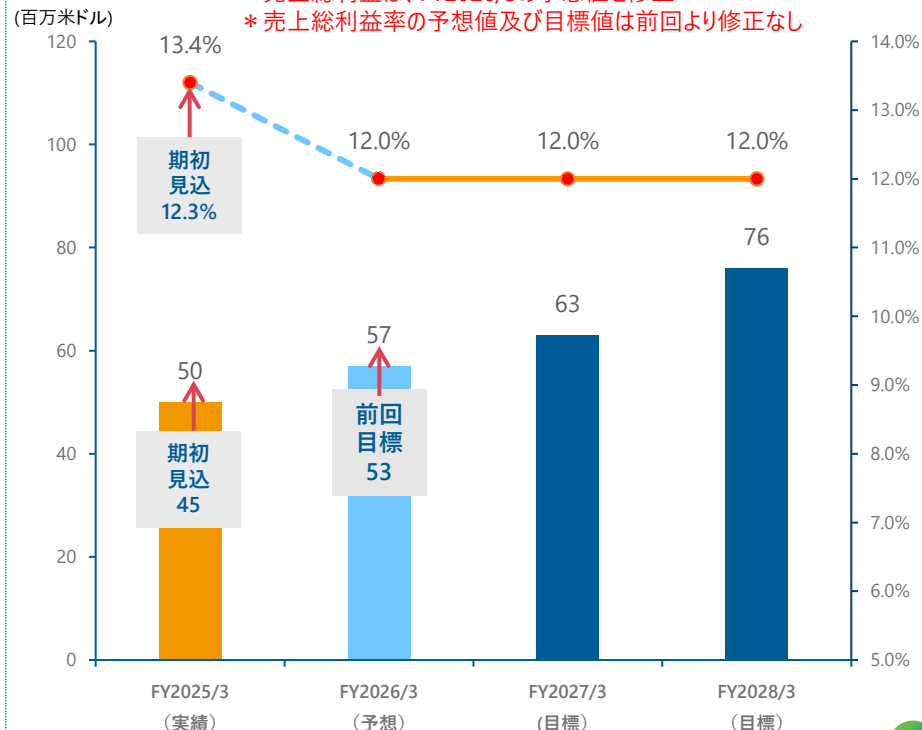
重要指標②：売上総利益率

売上総利益率10%以上を重要指標（KPI）に設定

国内同業他社 2 社の平均（約12%）とほぼ同率を確保

* 売上総利益は、FY2026/3の予想値を修正

* 売上総利益率の予想値及び目標値は前回より修正なし



*CAGR:年平均成長率 (%)

※前回：2024年6月28日付「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」

主要投資計画の変更

- 2024年6月28日付本資料において、コンパウンド能力の増強完了予定時期を2025年下期予定から2026年3月予定に計画を変更と開示しましたが、継続的な現地の労働力不足等により完了予定時期を2026年夏頃へ延長

* 今後計画に変更が生じた場合は、速やかに開示いたします。

主要投資計画



- 更なる顧客の需要拡大に対応するため、コンパウンド能力の増強を計画

能力増強の概要

会社名	Nihon Pigment Sdn. Bhd. (OPSグループの生産子会社)
所在地	マレーシア/ジョホール・バル
投資予定額	32百万米ドル
投資の内容	生産設備(土地/建屋/機械)
着手年月	2021年4月
完了予定年月	2023年3月予定から現在調整中
完成後の増加能力	150%の生産能力増強

生産拠点はマレーシアとシンガポールの国境近くにあり、シンガポール本社と円滑な連携が可能

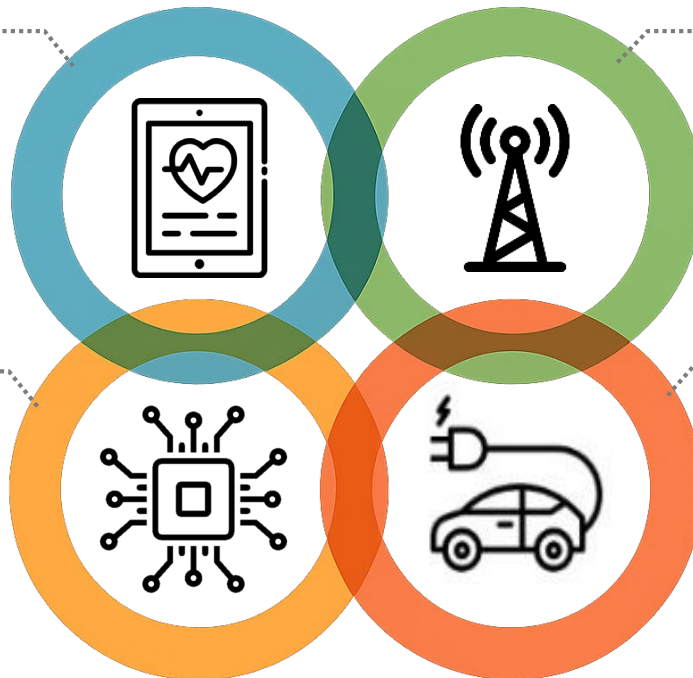


2022年6月24日付開示「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」

- 中長期的に注力すべき成長分野として、従来から取り組んできた ①5Gに代表される情報通信技術分野及び ②EVに代表されるモビリティ用途に加え、③半導体関連分野、④メドテック (MedTech)分野を新たな重点領域と位置付け戦略的に取り組む

メドテック (MedTech)

MedTechの進化・普及が進むほど、高機能・高信頼性が求められ、それに応じてエンジニアリング・プラスチックの需要が増加



情報通信技術 (IT&C)

エンジニアリング・プラスチックの需要を後押しする5Gテクノロジー

半導体関連

半導体の高度化（高集積化、微細化）が進むほど、エンジニアリング・プラスチックの需要も比例して増加

自動車 (EV)

電気自動車がエンジニア・プラスチックの需要拡大を牽引

*これら4分野に関する市況規模予測については、p20を参照願います。

革新的なソリューションを提供

学術専門家と業界のリーダーとの強力なパートナーシップによる革新的な研究開発を通じて、画期的なソリューションでの市場のギャップを埋める。

市場の動向とニーズの分析

長年にわたり収集された当社独自の材料データベースにおける業界関連のデータポイントをサポート。



革新のチャンスを見つける

業界内の潜在的な市場におけるギャップを戦力的に明らかにし、活用することで革新を推進し、競争優位を確保する。

研究開発

エンジニアリング・センターにおいて、
代替・高機能新素材を研究し、
革新的手法で開発



再生可能エネルギーの導入

生産拠点では、ソーラーパネルを設置し、
太陽光等の再生可能エネルギーの導入
を計画



パートナーとの共同開発

シンガポール科学技術研究庁(A*STAR)
をはじめとする研究機関と積極的に
連携し、新規素材を共同開発中



2030年までの持続可能な開発目標

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。



二酸化炭素排出量 **30%削減**



持続可能性素材の割合 **20%達成**
(2025年)



資源・エネルギーの効率的利用

持続可能な3つのソリューション

使用済みリサイクル技術を活用した素材 (PCR: Post Consumer Recycled materials) との配合

- 1 再生ガラスから生成された**PCRグラスウール**と合成樹脂を配合した**持続可能 & 環境規制**に適應した製品の提供



PCRグラスウール：繊維形態



グラスウール：シート形態

- 2 Anolac 100185-0Z0-ZZZ (PCR ABS 85%) の提供
お客様の要求する特定の機械的特性や色彩を損なうことなく、最大85%の再生ABSを含有

ANOLAC®

バイオ・ポリエステル： プラスチック代替材料を共同開発中

微生物によって、最終的に水と二酸化炭素に分解される生分解プラスチックをシンガポール科学技術研究庁 (A*STAR) と共同開発中



竹由来の生分解性製品 (P12 参照)

従来の使い捨てプラスチック製品の利便性を損なうことなく、より優れた持続可能な選択肢を提供



出典：AMC社のCompany Profile (www.taiwanbamboo.shop/en/about/about/#mainBox)

PCRグラスウールについて

- PCRグラスウールは、溶融した再生ガラスを高温で遠心紡糸することで生成された綿状の繊維（リサイクルガラスの最大85%を再利用）
- リサイクルガラスは、以下のような消費者からの廃棄物から生成



飲料ボトル



オートバイ



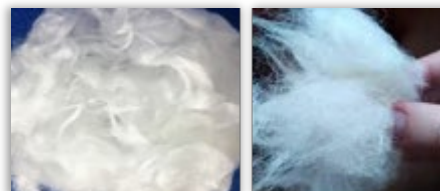
電球



建造物

● PCRグラスウールの優位性

- 成形 - 薄肉部品や精密部品に適用
- 外観 - なめらかな成形表面
- 材料の流動性向上
- 淡色の成形が可能



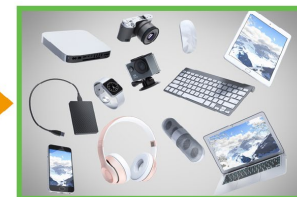
グラスウール：繊維形態



グラスウール：シート形態



OPSにて合成樹脂と配合



環境に配慮された軽量な素材

化学工業日報

OGK技研、GW強化PP 中空成形品の肉厚均一に

2025年5月29日

プラ・ゴム部



自転車用チャイルドシートのトップメーカーであるオージーケー技研（OGK技研、大阪府東大阪市）は、シンカボールのコンパウンダーであるオムニ・プラス・システム（OPS）と連携し、OPSのグラスウール（GW）強化ポリプロピレン（PP）コンパウンドを用いた成形品の製造に乗り出す。カスアシスト成形にOPSのGW強化材を用いることで、中空部品の隅肉を抑制。強度のばらつきを抑えて信頼性の高い部材ができることを訴求する。まずは自社製品への適用を図り、次いで受託加工にも踏み出して差別化技術として需要を取り込んでいく。ガラス繊維強化PPに加え、ポリアミド（PA）や金属製品の代替なども視野に入れる。

ガラス繊維10%配合PP成形品（左）では隅肉が形成されているが、GW10%配合PP成形品（右）では隅肉が抑制されている。

日本メーカーでの導入に向けて評価中

化学工業日報 2025年5月29日

当社の将来の成長と事業計画の実行に影響を及ぼすと思われるリスク

- 以下は、将来の成長や事業計画の実行に影響を与える可能性があると考えられる主要なリスクです。
その他のリスクについては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

主要なリスク (経営成績及び財政状態への影響)	リスク顕在化の可能性			リスク対応策
	可能性	時期	影響度	
①当社グループの事業について 昨今の多国間の貿易摩擦や、需給バランスの変動による市場変動や、消費者需要等に著しい変動が生じた場合	高	短期	中	付加価値の高いエンブラの拡販や新市場への事業ポートフォリオの拡大
②特定の取引先や販路拡大及び用途拡充に関するリスク 最終顧客各社の事業方針の変更や、米中貿易摩擦をはじめとする国際情勢に起因する事象により変化が生じた場合 販路拡大及び用途拡充が計画通りに進まない場合や、売上の過半を占める家電用途の需要が予想外に減少した場合	中	中期	中	シンガポール政府機関及び伊藤忠グループとの連携、有力顧客（エンドユーザー含む）との更なる関係強化、そしてDXの推進により、他社との差別化を促進
③競争について 開発リードタイムの迅速化等により、同業他社との差別化を図っていますが、本市場は技術革新が早く、当社グループの技術的な優位性を維持できない場合	中	中期	中	開発リードタイムを短縮することで競合他社との差別化を図り、エンドユーザー開発担当者と強力な関係を構築
④研究開発体制について 研究開発に想定以上の時間を要し、製品化が計画よりも遅れた場合や、共同研究先との共同研究が途絶した場合、共同研究の内容が技術革新により陳腐化する或いは市場ニーズに合致しなくなった場合、またシンガポール政府機関からの支援が得られなくなった場合	低	中期	大	- 短期的なリスクの軽減：1年以内に結果が出ない場合はPJを中止 - 長期的な開発は、研究機関や政府と協力しているため、リスクを共有

当社の将来の成長と事業計画の実行に影響を及ぼすと思われるリスク

- 以下は、将来の成長や事業計画の実行に影響を与える可能性があると考えられる主要なリスクです。
その他のリスクについては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

主要なリスク (経営成績及び財政状態への影響)	リスク顕在化の可能性			リスク対応策
	可能性	時期	影響度	
⑤生産体制に関するリスク 当社グループの想定通りの調達ができない場合や、出荷の遅延、電力不足等のインフラ事故やその他サプライチェーンに支障が生じた場合、或いは想定外の法令・諸規則の変更、ストライキ等の生産活動への支障、経済・政治・災害・その他社会的混乱の発生、人件費・物価等の大幅な上昇等が顕在化した場合には、当社の生産体制に影響が発生	中	短期	中	● 複数の調達および配送ルートの確保 ● マレーシアの製造子会社のバックアップとして、フィリピンの製造子会社を運営 ● M&Aまたは事業提携によるサプライヤーの確保と製造拠点の拡張
⑥伊藤忠との関係について 当社に対する伊藤忠の出資が終了した場合には、伊藤忠グループ及び同グループのネットワークを活用した取引先との取引が終了する可能性があり、その場合、これらの取引先との取引金額は仕入れ及び販売全体の約10～15%を占めるため当社グループの事業に悪影響が発生	低	中期	中	● 伊藤忠グループとのシナジーを追求し、双方にメリットのある強固な事業を推進 ● 伊藤忠グループにはない強み（研究開発力）の増強

- 記載のリスクのうち、特に①、②、⑤については、
ウクライナ紛争やイスラエルとイランの紛争等による資源価格上昇やサプライチェーン（供給網）の乱れ等による影響が想定されます。

本資料の取り扱いについて

- 本資料には、当社及び当社グループに関する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する当該記述を作成した時点における仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという補償はありません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。
- 上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。
- 本資料に含まれる当社及び当社グループ以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。
- 本資料の次回更新は、2026年3月期決算短信開示後に開催される投資家向け決算説明会開催後の2026年6月末ごろを予定しております。